

広報TSB

第22号

令和4年度 後期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

「コロナ禍を経た 本学図書館の役割」

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

図書館長 伊藤 常久



図書館長となってから間もなく二年が経とうとしています。この間、学内の新型コロナウイルス感染症予防方針とその対策に基づき、図書館もまた学生や教職員の利用条件を制限し、学外者の入館を見合わせるといった対応を余儀なくされました。今年度においても、第七波より報告される感染者数の最大値は低下しているにも関わらず、死亡者数では過去最多を更新したオミクロン株による第八波が猛威を振るいました。年明け二月以降に漸く収束傾向を示したことで、学内BCPも引き下げられ、新年度を迎える前に通常の利用サービスへと図書館も切り替えられる状況となっています。

本学はキャンパス内に大学と短大、二つの高等教育機関を有していますが、図書館はそれぞれ独立しておらず、共通施設として設置されています。そのため、美術や服飾、栄養や保育等、多様な専門性と異なる修学期間の学生たち、そして教職員が利用する施設としての独自の役割を担っています。大学図書館としての基礎は、本学の前身である東北女子職業学校の時代に遡りますが、当初から少人数教育や実学教育を

重視し、学生に寄り添った学びを大切にしてきた系譜は現在の図書館においても受け継がれており、身近で利用しやすい環境づくりと利用者の個々のニーズに応じた丁寧なサービスの提供を常に心がけています。しかし、この三年余りにわたるコロナ禍の影響は、本学の図書館が果たしてきた役割や機能、さらには運営の在り方について、改めて見直す必要性とさまざまな課題を浮き彫りにしたのではないかと感じています。

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、学内への入構禁止措置や遠隔授業の実施、三密回避のための教室をはじめとする共有スペースの人数規制等が行われたことで、「対面」を主とした図書館の利用サービスもその多くが制限、中止の対象となりました。気軽に図書館に立ち寄り、必要な資料や本を直接手に取って閲覧・検索ができる従来の機能に加え、感染症によるパンデミックや災害発生等、不測の事態においても利用者の学びを保障し、研究活動を停滞させないための電子図書館機能、さらには知の蓄積・発信機能の促進が必須になりつつあります。現在、学内では情報処理教育センターが中心となってDXを進める動きが加速しています。図書館でもそうした取り組みを率先して行うことで、本を通じたデジタルデバйдを解消する役割も担っていければと考えています。

一方、開館から三十年以上が経過する建物は、度重なる地震のダメージと老朽化が生じており、さらには蔵書増大による狭隘化といった問題にも向き合わなければなりません。少しでも多く利用者の期待に応えつつ、いつも身近に感じてもらえるよう、図書館の挑戦と模索はこれからも続きます。



大学家政学科

短信



令和四年度秋・冬の家政学科の様子をお伝えします。新型コロナウイルスの流行は今も続き、年末年始にかけて家政学科でも数多くの感染者・濃厚接触者がみられました。このような状況でも、補講・追試験を行いながら通年で対面授業を実施できました。教育実習や健康栄養学専攻の臨地実習も多くの影響を受けながらも、ほぼ予定通り実施できました。

十月四日に登録販売者試験の合格発表があり、健康栄養学専攻学生の十一名が合格しました。さらに昨年合格した三年生が薬学検定に挑み、二名が一級に合格しました。一級合格者はこの三年間で十一名になり「薬に強い栄養士」の育成が着々と進んでいます。

(株) 利久との産学連携が始まり、健康栄養学専攻三年生が牛タンの新しいメニュー開発に挑むことになりました。会社へのプレゼンテーションを経ていくつかのメニューが商品化の候補に挙がり、そのうちの一つが一月二十四日に学内で店頭販売を前にしたキッチンカーでのテスト販売が行われました。店頭に挙がるのが楽しみです。

大学祭は十月十五・十六日に三年ぶりに通常開催されました。服飾文化専攻学生を中心としたファッションショーが有観客で開催され、新作の衣装が披露されました。健康栄養学専攻では泉区家庭健康課とのコラボ出展の他、同時開催のオープンキャンパス企画として「熱いのは大学祭だけじゃない！俺たちの料理バトル！」を動画披露しました。

十二月八日に中国吉林省長春市にある東北師範大学のファッションデザイン系と服飾文化専攻とで学生・教員同士のオンライン交流会が行われ、双方の大学の概要や授業内容を互いに紹介しました。学生たちには大いに刺激になったようで今後の交流の発展が期待されます。なお、恒例のファッションショー外部公演も、二月二十二日にエルパークで通常開催の予定で鋭意準備中です。

最後に人事異動ですが、八月末に高橋聡美助手、九月末に田中美咲助手が退職され、九月より大久保美里助手、一月より門脇優奈助手を迎え入れました。また、三月末に井上美紀教授、小野真実教授および高野弥咲助手が退職されます。退職の方々の本学の教育研究活動へのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。〔鈴木(裕)〕



大学美術表現学科

短信



先ず初めに、美術学部の令和四年度下半期の活動として大きなものを二つ挙げようと思います。

一つ目は十月に行われた「学科内コンクール」です。毎年開催の全学年を対象としたコンクールで、今回で四十九回を数えます。応募人数は三十七人と、一時に比べると少数にとどまりましたが、本学の多様なカリキュラムを反映して、工芸、絵画、デザイン等バラエティに富む、いずれも秀作がそろいました。最優秀賞は二年次・藤平みのりさんの「星のように」(立体・陶芸)、優秀賞は二年次・大上詩代さんの「夢で見た2人」(人形・絵画)と三年次・白倉向日葵さんの「胎動鼓動天体図」(絵画)になりました。

二つ目は「卒業制作展」(二月二十一日～二月二十六日、宮城県美術館・県民ギャラリー)です。平成三十一年に美術学部美術表現学科を開設し今年で完成年度を迎え、今回はその一周年による記念すべき展覧会となりました。前身である家政学部生活美術学科の時代を含めると第五十五回展となります。社会的なニーズに対応できるカリキュラムの下、今回その成果の一端を広く一般に紹介することができたことは大変喜ばしいことです。作品点数三十二(三十名)で、学生が四年次の約一年間じっくり時間をかけて制作したものです。アニメーション、プロジェクトマップピング、3DCG(ヴァーチャルリアリティ)など、「メディア芸術」分野のものが例年に比べ多く出品されました。

その他の活動として、例年にひき続き地域社会活動と

高等学校との連携活動を上げることができま。大衡村教育委員会との連携協定の下、「場とオブジェクト」（作品展覧会）が大衡村ふるさと美術館で十月・十一月に開催されました。高大連携では、県内高等学校への出前授業に加え、今回で二回目となる「高校生デッサンコンクール」を開催し、県内五校一四六名の参加を得ました。また連携協定を東北生活文化大学高等学校と結んでおりますが、十一月に美術科のある宮城県宮城野高等学校とも締結しました。

最後になりますが、本年度の特筆すべきこととして、本学園が隣接の旧KHB社屋を購入したことがあります。この施設は「大学七号館」として、特に美術学部教育・研究に使用される予定です。既に十二月には学長による美術特別講義「素描（デッサン）の心得」（二年生対象）が実施されました。今後段階的に整備を進め、地域の新しい美術教育の拠点として機能していくことが大いに期待されています。〔三上〕



短大生活文化学科

短信



今年度後半の生活文化学科の近況をお知らせします。元通りとは言えませんが、「withコロナ」に伴い、少しずつ学内行事が正常化されつつあります。

二年生の校外実習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応のため、スケジューリング上の困難はありましたが、結果的に両専攻ともに実施できました。これらの成果は、食物栄養学専攻では、二月一日に校外実習報告会にて、子ども生活専攻では、十二月二十一日に実習実践報告会として、報告がなされました。それぞれの報告会には一年生も参加し、次年度の実習に向けイメージを膨らませよう。ただし食物栄養学専攻一年生の給食管理基礎演習Ⅰで行う予定だった施設見学はコロナ禍の影響でキャンセルとなりました。

食物栄養学専攻では、テーブルコーディネート演習Ⅱを受講している一年生および二年生の有志が、十一月一日から六日まで行われたNPO法人食空間コーディネーター協会東北北海道支部主催のテーブルコーディネート展に参加しました。なお今年度より、テーブルコーディネート演習の履修者は「食空間コーディネーター三級」取得も目指すことができます。また、新資格として令和四年度に導入した「フードサイエンティスト」の資格取得者がこの三月に初めて認定される予定です。

子ども生活専攻では、前年度、一年生の基礎実習（ますみ幼稚園）が新型コロナウイルス感染症の急拡大により中止となったのですが、今年度は二月に実施できました。また、令和四年度に新しく導入したピアヘルパー認

定資格試験を十二月三日に行いました。その結果、合格率九十一・六％と、一年目としては上々の滑り出しとなりました。

産学連携関係では、株式会社カルラやフレスコ株式会社に、有限会社ジャンボン・メゾンとの産学連携を八月に締結しました。これらの事業には学生も参加しており、特にフレスコ株式会社との連携では、十一月にお弁当「健美彩菜」が商品化され、現在も販売が継続されています。また、栄養士と保育者の協働について理解を深めるための事業として「保育・食育実践プログラム」をスタートさせました。このような生活文化学科の特色を活かした教育を、来年度以降も継続していきたく存じます。〔池田〕





東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

クラスだより

(令和四年度 後期)



服飾文化専攻 1年

一月十四日(土)に家政特別セミナーがあり、卒業生から服飾に関する仕事の話、家庭科教員の話、大学院生の研究の話を行いました。二月二十二日(水)にはファッションショー外部公演が三越エルパーク仙台スタジオホールで開かれます。服飾文化専攻一年生からはデザイナー、モデル、照明スタッフとして計五名が参加します。いずれもこれからの学ぶ意欲や動機づけにつながり、将来の進路を考えるきっかけになると感じています。「植松」

服飾文化専攻 2年

現在、学生たちは、一人ひとりの進路目標に向かって、衣料管理士や教職・学芸員などの資格取得に必要な専門科目を学んでおり、時間割(履修科目)も多様です。

今年の「家政特別講義」は、コロナ禍ではありませんが、国立の理工系大学院への進学者、高校の家庭科教員として働く先輩が来学し、後輩のために示唆に富んだ講話をしていただきました。参加学生たちは、先輩の講話を熱心に聞き、ノートに書き留めるなど、社会人基礎力のひとつ「前に踏み出す力」を垣間見ることができ、大変頼もしく感じた次第です。

残された二年間、卒業後の進路を見据え、悔いのない充実した学生生活を過ごして欲しいと願っております。
「水谷」

服飾文化専攻 3年

一月十九日に課題研究Ⅰ発表会が開催されました。学生は緊張感でいっぱいでしたが、研究成果を「しっかり伝えたい!」という思いの伝わる充実した発表会となりました。

これからの一年は、一人ひとりが今の自分と向き合い自問自答し、将来に向けての一步を踏み出す時となるでしょう。それぞれが抱えている課題に対峙し、乗り越えようと自分でもがくことでしか得られないことが沢山あります。目を配り、支えていきたいと思っています。「川又」

大学服飾文化専攻 4年

冒頭に進路の報告をさせていただきます。休学中の学生一名を除き、お陰様で遅い学生でも、年末までには全員の就職先が決まりました。皆、この四年間よくやってくれたと思っています。ただ、まだ後期の試験は終わっていない時期ですので、最後まで気を緩めることなく学業に専念するよう指導してまいります。そして、できる限りのアドバイスも卒業式の日まで続けながら、皆と笑顔で卒業式を迎えたいと思う今日この頃です。「菅野」

大学健康栄養学専攻 1年

大学に入学して、一年が経とうとしています。不安でいっぱいだった一年生も、今では少しずつ大人びて、大学生らしい顔つきになってきました。学修では、専門科目も増え、一歩ずつ管理栄養士国家試験への階段を上り始めています。また、コロナ禍で学校行事も限られている中、大学祭への参加や卒業式のボランティアなど、本

学の一員としての活躍も期待されています。様々なことに挑戦している姿は、頼もしい限りです。「鳴原」

大学健康栄養学専攻 2年

健康栄養学専攻二年生は、後期にこれまで少人数グループで行っていた実験・実習とは異なる百人分の給食(お弁当で提供)を学修しました。献立作成、発注、調理および食券販売まで各人の責任になるため、声を掛け合って確認しながら作業を進めなければなりません。この実習を終えて、次年度には、事業所、保育園など校外の実習に出掛けていきます。全員が三年次へ進級できるように願っています。「伊藤」

大学健康栄養学専攻 3年

はやいもので三年生の後期となりました。前期に引き続き国家試験を意識した授業も増えてきました。そのような中、十二月に全国栄養士実力認定試験、二月に初めての管理栄養士の外部模試を受けました。成績の良かった学生、そうでなかった学生と様々ですが勝負は四年生の三月と考え、今の成績に一喜一憂せずに粘り強く頑張ってもらいたいと思います。

また公務員対策講座や就職セミナーも始まりました。学生でいられる時間もあと一年です。四年生になっても頑張ってもらいたいと思います。「川俣」

大学健康栄養学専攻 4年

十二月には約一年半の取組み成果を報告する課題研究発表会を行いました。各自、発表・質疑応答・進行など協力して行う姿に、四年間の成長が窺えました(内容は卒業式にてポスター展示の予定です)。就職内定率は二月

中旬現在、九割を超える状況です。資格取得のための全
ての学外実習も報告会まで無事終了し、二月末には管理
栄養士国家試験があります。目指す将来に向け、これま
で得た知識と経験を以て活躍する皆さんを心から応援い
たします。〔八巻〕

大学美術表現学科 1年

入学してからこれまで、あつという間でした。学生た
ちはすっかり大学生活に慣れ、講義、実技、課題制作のペー
スを掴んできたようです。アトリエからはいつも楽しそ
うな、元気な笑い声が聞こえてきます。クラスの良い雰
囲気の中で表現する喜びを育んでいってほしいと思いま
す。十月には「第四十九回学科内コンクール」が開催さ
れました。コッコツと制作に取り組み、高橋幸聖さんが
学長賞、丹羽悠乃さんがギャラリー賞を受賞しました。〔鶴
巻〕

大学美術表現学科 2年

二年次からは専門分野の授業が始まり、履修科目を迷
いながらも「自分で決めて」取り組む一年でした。好き
な授業で頑張る姿や、授業を受けてみて面白さに気づき、
積極的に取り組み始める様子など、一人ひとりが前に進
む姿が印象的でした。体育祭や学科内コンクールでも活
躍する姿が見られました。入賞してもしなくても、それ
ぞれに得たものがあるはずです。今後の糧にして、残り
二年間の学生生活を充実したものにしてほしいと思いま
す。〔落合〕

大学美術表現学科 3年

いよいよ卒業学年です。学生たちは、学期ごとの中間

審査を乗り越えながら、これまでの研究成果を卒業制作
という形で最終的に展示発表します。自身の仕事に対し
て何をもって「完成」とするのか、この一年の中で何度
も悩めることでしょうか。それは制作における打開策、
妥協点を見つけないというよりは、自分とは何者であった
のかを強く意識する、その過程そのものに表れるような
気がします。花は実（さね）の中にあります。〔伊勢〕

大学美術表現学科 4年

四年次後期は卒業制作展の準備、就職活動等、学内外
で積極的に活動する姿が見られ、四年間の成長を実感す
ることができました。二月二十一日～二十六日には、こ
れまでの研究成果を発表する場として、第五十五回東北
生活文化大学美術学部美術表現学科卒業制作展が開催さ
れました。

多忙な学生生活から解放されたばかりですが、四月か
ら新天地での生活が始まります。本学での学びを活かし、
一人ひとりが活躍することを願っています。〔佐々木〕

短大食物栄養学専攻 1年

入学してから約一年、未だ未だ制約がある中でも皆しっ
かり学生生活を送っています。自主的に勉強会を開いて
学業に励んだ学生もいました。大学祭では有志が出店し
たフルーツ館の店も賑わいを見せました。また、宮城県
内の複数の企業と共同で、お弁当の開発や商品を使用し
たレシピの考案など、授業以外でも目覚ましい活躍を見
せてくれました。全員揃って元気に新年度を迎えられそ
うな今、また新たな活躍を期待しています。〔永沼〕

短大食物栄養学専攻 2年

大学祭では、全員で力を合わせて出店の企画から運営
まで行い、手作りのスイートポテトパンと、フレスコキ
クチとのコラボ弁当「健美彩葉」を販売しました。学生
主体の活動は、短大生活で初めてであり、とても貴重な
経験となりました。学業面では、多くの学生が栄養士以
外にも様々な資格を取得し、食空間から商品開発・流通
まで、幅広い知識と技能を修得することができました。
卒業後、それぞれが選んだ道での活躍を願っています。〔木
下〕

短大子ども生活専攻 1年

一年生は、各自が想像していたよりも忙しい日々を過
ごしていたように思います。現在は後期の期末試験を終
えてホッとしているのも束の間で、附属保育園での観察
実習に取り組んでいる所です。その忙しい日々の中でも、
子ども食堂や他のボランティアに積極的に取り組んで、
子どもたちと直接関われる時間を大切にしている様子が
見られました。今後も他者と直接関われる機会を大切に
できる保育者になることを願っています。〔橋浦〕

短大子ども生活専攻 2年

この冬は例年にない寒波でしたが、少しずつ日差しに
温かさを感じるようになってきました。にぎやかで闊達
な二年生でしたが、今は穏やかな気持ちでまもなく迎え
る卒業式、そして春からの新天地へとそれぞれが思いを
馳せています。今年度は、十二月二十一日、三年ぶりに
対面での『実習報告会』を開催することが出来ました。
一年生に向けて実演を交えながらアドバイスを伝える姿
に、十週間の実習を経た先輩としての自信を感じること
が出来ました。〔佐藤（深）〕

学友会活動再開

今年は三年ぶりの体育祭と対面型の大学祭が行われました。学内国内の感染状況が穏やかな時期と日程が合ったのです。村上君、岩井君、齊藤さん、大村さん、木村君、立崎君、岩間さんから学友会に携わる学生の熱き思いがこの好機を呼んだのかも知れません。皆で作って一緒に楽しむ素晴らしい時間、これは人類が二年間我慢していた尊いもの。一方で七夕祭は直前に、秋の体育祭は延期後中止に。企画から様々な手続き、仙台市のレンタル、機材景品の手配、グッズ制作等々準備の最中に申し訳ないことをしました。

昨年度の富谷君たちと山沢先生、一昨年度の佐々木君たちと小野先生が学友会のバトンを繋いでくれたから今年は少し前進しました。へこたれずちよつとずつ、また前へ！【鈴木（専）】



ファッションショー開催



服飾文化専攻学生が中心となり、全学科専攻の学生が参加している「ファッションショー学生実行委員会」では、本年度久しぶりに、二つのランウェイショーを有観客で実施することができました。十月には大学祭の催しの一つとしてのショーを開催し、また二月二十二日には、エル・パーク仙台スタジアムホールにて第十五回東北生活文化大学ファッションショー外部公演が開催されました。外部公演のテーマは「Reunion（再会）」。三年ぶりの有観客開催ということもあり、学生たちの思い入れもひとしお。準備段階から「服を紡ぎ、想いを紡ぐ」を合言葉に、多くの皆さまに感動を伝えようと努力を重ねた成果をご覧いただくことができました。【川又】

（株）利久との産学連携事業

このたび健康栄養学専攻では、（株）利久と産学連携協定を結びました。牛タンという仙台ならではの食文化がありますが、八十年が経とうとする今、若者離れが進み、数十年後には牛タンという食文化が消えてしまうのではないかと危惧されています。

そこでタン先やタン下などの比較的安価な部位を用いた若い人向けの健康的なメニューを開発することとなりました。三年生が開発を担当し、テスト販売を経て、三月に「食べ方色々！牛タン紅茶鍋御前」が泉区内の三店舗や仙台パルコ2店などで販売されることになりました。今年の夏には「牛タンビビンバ定食」、冬には「牛タンテール鍋定食」が産学連携メニューとして販売予定です。

仙台で管理栄養士を養成する本学ならではの取り組みになればと思っています。【川俣】



仙台筆筒共同組合連携事業 「センス生かし包装紙考案」

「地域創生演習Ⅰ」伊勢周平講師、「染織」佐々木輝子講師、「情報デザイン」鶴巻史子教授の授業を履修する一年生六十四名と二・三年生七名が、宮城県の伝統工芸品である仙台筆筒のサブブランド構築と商品開発を行いました。仙台筆筒協同組合と協働で「若年層に受け入れられるデザイン」をテーマにロゴや商品を考えました。太布萌恵子さんが提案した「金具をモチーフとする木製ファイルケース」は筆筒職人から高く評価されました。今回は、竹沢千陽さんがデザインした「龍の金具模様の包装紙（二パターン…紺&蛍光緑色、白&茶色）」が採用となり、佐藤藤乃副手が実装し、現在、湯目家具百貨店にて小筆筒などを包む包装紙として使用されています。【鶴巻】



(有)ジャンボン・メゾンとの 産学連携事業



二〇二二年八月より(有)ジャンボン・メゾンと東北生活文化大学短期大学部で産学連携事業の協定を結び、「味噌ペーコン」の開発を行っています。これまで数回学内での官能評価、分析結果をもとに試作を繰り返しています。二月には学内でレシビコンテストを行い、最優秀賞には「味噌ペーコンの筑前煮」が選ばれ、最終審査に残った三つのレシピを販売時のギフトカタログに掲載していただくことになりました。学生にとっては、日頃学んでいる調理学や栄養学等の知識を発揮する大変良い機会となっております。学内の講義や実習だけでなく、企業と関わることで「栄養士」という仕事をより魅力的に感じてもらえればと思います。【青柳】

短大・子ども生活専攻 ピアヘルパー養成講座

「ピアヘルパー」は学生を対象とした日本教育カウンセラー協会認定資格です。いわば、学生のうちから誰でも遭遇する問題の相談相手になる、ボランティア活動などの世話を務めるなどがピアヘルパーの役目です。本学では令和四年度より加盟校に加わり、子ども生活専攻の学生を対象にピアヘルパー養成講座を実施しました。この講座を通し、適切な自己開示や自己主張ができるようになり、自己肯定感が向上したようです。高いコミュニケーションスキルを求められる保育者を目指す学生たちにとって、学び多きものとなったようです。十二月に試験に臨み、十一名が合格しました。今後のピアっ子の活躍に乞うご期待！【米川】



PHOTO ALBUM

(令和4年度 後期)



地域連携活動「ミシン学習サポート」

9/12(月)に名取市立増田小学校にて、服飾文化専攻の菊地紗代講師と学生有志が、ミシンの使い方の指導とサポートを行いました。



TSB公開講座「超高齢社会が抱える「食べる問題」を考える」

10/29(土)に本学にて健康栄養学専攻の高橋文講師による公開講座を開催し、一般聴講者約30名が受講しました。



地域連携活動「チリメンモンスターを探せ!」

10/29(土)にスリーエム仙台市科学館にて、さらに11/12(土)に本学にて、食物栄養学専攻の黒川優子准教授と学生有志が、地域の親子を対象としたワークショップを開催しました。



フレスコキクチ×食物栄養学専攻 コラボ弁当販売!

今年も食物栄養学専攻2年生がスーパーマーケット「フレスコキクチ」とコラボ弁当プロジェクトに取り組み、「健美彩葉」弁当が11/19(土)から販売されました。



地域福祉活動計画(せんだいaiプラン) ダンス動画完成☆

仙台市社会福祉協議会が策定した「地域福祉活動計画(せんだいaiプラン)」のPRオリジナルテーマソングに乗せたダンス動画を、子ども生活専攻1年生が制作しました。



地域連携活動 「水の森市民センター地域まつり」

11/19(土)・20(日)に行われたおまつりにて、服飾文化専攻の学生が授業で制作した作品を展示し、有志の学生が会場を訪れた方々に説明を行いました。



フィールドワークを通して 子育て支援事業を体験

12/10(土)に子ども生活専攻2年生の選択科目「地域福祉論」のフィールドワークとして、いずみワクワク食堂が主催する「親子クッキング教室」に参加しました。



東北師範大学(中国)とのオンライン交流会

12/8(木)に、中国吉林省にある東北師範大学のファッションデザイン学科と本学服飾文化専攻が初めてのオンライン交流会を行いました。今後の交流も楽しみです。



高校生デッサンコンクール

美術表現学科では宮城県内高等学校に在籍する高校生を対象としたデッサンコンクールを開催しました。「石膏像」をテーマに146点の応募があり、オンライン展示も行いました。

就職支援センターから

来年4月に大学2年生になる学年からインターンシップのあり方が大きく変わります。昨年6月に文部科学省、厚生労働省、経済産業省の三省合意改正により、次の4類型になります。タイプ1は「オープンカンパニー型」で現在の1DAY仕事体験等と同じ会社説明会タイプです。タイプ2は「キャリア教育型」で大学1年生や2年生を対象とした就業体験です。そしてタイプ3は「汎用的能力及び専門的能力活用型インターンシップ」で、汎用的能力活用型は5日間以上、専門的能力活用型は2週間以上の就業体験が必須になります。最後にタイプ4は「高度専門型インターンシップ」で主に大学院生を対象としています。改正前は、インターンシップの情報を採用選考の際の情報として活用できませんでした。しかし、この改正により、タイプ3と4だけがインターンシップを名乗ることが認められ、これに参加した場合は採用選考の情報として活用することが出来るようになりました。

現在企業からヒアリング等で情報を収集していますが、現時点ではタイプ1のオープンカンパニー型が多くなりそうです。しかし、世界は競争が激しく企業は直ぐに変化に対応してくるのが常です。タイプ3と4に中心が動くのではないかと思います。このような状況下では、大学1年生や2年生の低学年時からタイプ2のキャリア教育を充実させ、自分自身の可能性を見付ける必要があると思います。[津島]